

# ちばの里山・生物多様性となりわい

## 第4回里山シンポジウム開会挨拶（堂本知事）

### 1. はじめに



皆さん、こんにちは。里山条例ができてもう4年が経ちました。そして、今日は国の方から農林水産省の福井政務官が見えられているので、歓迎の意味も含めて、千葉の里山をご紹介します、私の挨拶にしようと思い、工夫いたしました。

皆様もちょうどここへいらっしゃる途中、新緑が美しかったと思うんですけど、今日の題は「千葉の里山」、そして今、千葉県は生物多様性の県戦略、国では国家戦略というものもありますけれども、県戦略を今作ろうとしているところです。

生物多様性とそれから「なりわい」、今日はこの「なりわい」についてをテーマにさせていただきます。

森とか、林といいますと、とかく白神山地ですとか、それから知床の原生林を思い浮かべる、一方では今日も林野庁の方もいらしてありますが、あとは、人工林も花粉症になるほど、日本はたくさんの杉の林があります。そういった人工林もありますが、しかしその間に里山の存在というのは意外と注目をされずにきたのではないかなと思うんですね。ところが千葉県はといいますと、一番高いところが408メートルの愛宕山ですから、もうすべてが里山といっても過言ではない。周り三方を海に囲まれて、そこは里海ですけども、里海と里山の県といってもオーバーではないと思います。そういった中で今日は千葉の里山についてお話ししたいと思います。

### 2. 千葉の里山となりわい

千葉の森と林、そして、その里山といわれるところには、水が湧き、そして至るところに川辺があります。その間に田畑は谷津田と千葉では呼びますが、谷津田があり、その中に集落があり、ちょうどこの絵のとおり、里山の中に田んぼがあり、そこに集落があり、暮らしがある。この里山では人々が暮らしてきた。その暮らしを私たちは「なりわい」、ひとの暮らしだけではなく、自然を全部ひっくるめて「なりわい」というふうに呼んでおります。

ところで、この房総半島の自然に目を向けたいと思います。日本列島があり、南からの黒潮、これは暖流ですが、北から来る寒流の親潮とがちょうど千葉の沖で出会います。

館山の沿岸には世界最北限の造礁サンゴがあります。九十九里の川はといえば南限のサケが遡上してくる。サンゴの間をサケが泳いでいても、実際には見たことはないが、海の中ではおかしくない。

陸でもビワなどの常緑樹と、またナンシに代表されるような落葉樹の両方が生育し、南北の動植物が出会う、きわめて生物多様性豊かなところということが出来ます。

しかも、この豊かな自然環境、そして生物多様性、これらは数万年も昔から、多くの恵みをもたらしてきました。

この日本地図のところにある大きな輪、房総半島の上にある丸、この赤い丸はなんだかわかりますか。これは日本列島の中の貝塚の分布を示したものです。千葉県の貝塚の量が一番大きな丸になっておりますが、皆さんお分かりになると思いますが、もちろん日本一であることは確かです。そして、同時に貝塚密度が高いということでは世界一です。

我々の先祖は、縄文の昔から自然の中で上手に「なりわい」を持っていたということの証拠かと存じます。さらに、この人々のなりわいは、自然と調和・共存する豊かな里山であり、実はこれは人間が作り出していったというのが、千葉の房総半島の歴史ということが出来ます。

木材はもとより、里山は私たちに、炭とか薪などそういった燃料の供給源でした。また、山菜もあつたでしょう。木の実もあつたでしょう。食料の供給源でもあつたのです。

また、水田はといいますと、ミニダムの役割を果たしてきました。それから、様々な生き物、今少なくなったメダカとかタニシとか、カエルが棲み、そこに渡り鳥がやってきてついでにいく。その意味でも里山は非常に

生物多様性が豊かな場所です。

このような里山では、多様な生物の食物連鎖があり、そして自立し、循環する生態系を織り成しております。

里山とは、まさに『人の「なりわい」が作り出した、無駄のない、しかも持続可能な生態系』でもあったのです。

「サステナビリティ」ということを私たちは今、世界規模でいっております。「サステナビリティ」これはまさに里山のなりわいで、昔からやってきた。日本人はそういった意味で生物多様性を上手に生活に取り入れることについては、天才だったと私は思います。よその国ではもう本当にどンドン木を切ってピラミッドを作ったともいわれているし、西の文化といわれるヨーロッパではこのような里山のなりわいはほとんどないようです。日本固有の自然、そしてその里山のなりわいから日本の伝統文化・生活文化が生まれ、私たちの精神文化の礎となっているものと思われま

### 3. 里山の現状と課題

#### ○森林の荒廃

では、今どのような状況になっているのでしょうか。この豊かな里山が今は危機的な状況にあります。これは何かといいますと、まず、どのようにしてこの木材の価格が推移していったかということですが、私たちの生活が石油を使うようになりました。燃料革命によって森や林を利用しなくなりました。また、安い外材の輸入で、スギやヒノキの木材の価格も急落しました。そういったことで森が荒れ始めました。手入れが行き届かなくなった人工林は病虫害が発生してしまっています。さらに、竹がどンドン繁茂してきて木の種類が変わってしまっています。

また、これはカミツキガメですが、こういった外来動物がやってきて生態系も変わってしまい、里山は荒廃してきています。

さらに、シカやイノシシが豊かだった古くからの田畑を荒らしています。これも深刻です。田畑の周りに個々にある防護柵をこれは中に電気が通っていますが、これほどまでしなければ畑の被害が守れないという状況になってしまっているのです。



#### ○廃棄物の不法投棄

また、千葉県で深刻な問題として廃棄物の不法投棄があります。様々な開発、ゴルフ場のような開発もあったんですけども、里山が大きく変化している中で、廃棄物の問題はゴミや産廃が捨てられ、そしてその産廃から捨てられた有害なものが、地下水まで及んでしまう水質汚染の原因になっている。この荒れ方を見ていただくと最初に出たあのきれいな里山の絵となんと違ってきているか、削られ、埋められ、そしてゴミや産業廃棄物が捨てられてしまった里山は惨めです。もし、里山の木がものを言うことができれば「助けてくれー」と今悲鳴を上げているのではないかと私は思います。

### 4. 里山条例と保全活動

そうした里山の状況に千葉の県民はたいへん心配をし、何とか守ろうということでできたのが「里山条例」です。これはどういうことかと申しますと、荒れているけれども自分のところでは手が足りない、また手入れができないという人たち、すなわちその土地の所有者（森の所有者）と、見るに見かねてその森をきれいにしたい、手入れがしたいという活動する人たち、市民やNPO、地元住民の方たちとの間で、県が仲介役になって行う里山協定制度がこの条例に盛り込まれております。

現在では、70の協定が締結されておりますけれども、多くの人たちがこの森に入って、手入れをし、そして森が生き返ってきています。小さな子供たちからお年寄りまで、いろんな方が参加し、その森で楽しんでいます。さらに、いろいろな形で田畑をそして森を県民の手で何とか、また昔のような豊かさに復活させるためには、私たちは手をかけ、真剣に考えていかなければならないと思っております。

## 5. 里山と生物多様性と地球温暖化

もうひとつ、お伝えしたいことがあります。

今、地球の温暖化が急速に進んでいます。世界各地で異常気象が多発して、被害が出ています。今に私たち人間の健康あるいは農林漁業の面でも大きな影響が出るのではないかと懸念されます。

## 6. G20の千葉開催

そうした中で、安倍総理は今度日本で開かれますG8サミットが、北海道の洞爺湖町で開かれますが、この主なテーマを「環境」というふうにおっしゃっております。

たいへんうれしいことに、このサミットに先立ちまして、来年3月に、気候変動とクリーンエネルギーなどについて話し合う国際会議なんですが、G20グレンイーグルズ閣僚級対話が千葉県で開催されると先日政府から発表がありました。

この会議は、アメリカ、ロシア、日本をはじめとするG8国に、新興経済諸国の12カ国、中国とかインドなどが加わった20カ国。今、CO2の排出国トップがアメリカ、二番目が中国です。三番目がロシアです。そして、4番目が日本ということになりますが、そういった中でこういう会議が千葉で開かれるというのは私たちとしては是非とも歓迎したいと思います。

千葉でこれから温暖化と里山、また温暖化と生物多様性といったような関連も大いに私たちの運動として展開し、世界からいらっしゃる閣僚の皆様をお迎えし、同時に議論し盛り上げていって、G8までずっと関心を持ち続けることが大事だろうと思っております。

## 7. まとめ

最後にまとめさせていただきますが、里山は人と自然が調和した「なりわい」の場であり、この豊かで持続的なシステムを私たちはもう一度見直し、学び活用していかなければならないと考えております。

今日のテーマ「なりわい」を私たちは本当に皆でかみ締めながら、また、昔の人に学び、そして、21世紀型の新しい森づくりに向かっていきたいと思っております。

ありがとうございました。

